

授業科目名・形態	薬理学概論	講義	必修・選択の別	必修	単位数	1
科目担当者氏名	早狩 誠		実務経験の有無	有	開講期	1年後期

【授業の主題】

薬物は、生体に作用して生物学的反応を引き起こす化学物質であるが、法律で医療に限定使用が認められたものを医薬品といい、疾病の診断・治療・予防など医療全般に用いられる。本講義では、医療に使用される薬物の作用機序および有害事象を学び、医療人として必要な基礎知識を習得する。

【到達目標】

疾患に使用される薬物の目的および作用機序を理解し、患者への薬物療法において安全・適正な薬物療法に貢献できる資質を構築する。

【授業計画・内容】

各種治療薬の作用機序および副作用について解説する。

- 第1回 末梢・中枢神経系作用薬：麻酔剤・催眠薬・抗てんかん薬・抗パーキンソン薬・向精神薬等
- 第2回 循環器系・血液造血系作用薬：心不全治療薬、抗不整脈薬、抗狭心症、
- 第3回 抗高血圧症薬、抗脂質異常症薬・貧血治療薬・抗血小板薬・非ステロイド製抗炎症薬
- 第4回 呼吸器系作用薬：鎮咳薬、去痰薬、気管支喘息治療薬
- 第5回 消化器系作用薬：消化性潰瘍治療薬
- 第6回 免疫系作用薬：オータコイド・アレルギー用薬
- 第7回 抗感染症薬・消毒薬：殺菌作用および静菌作用を示す抗生物質
- 第8回 抗悪性腫瘍薬・副作用対処薬：細胞周期抑制薬・分子標的薬および制吐剤

【授業実施方法】

基本的に教科書の内容に沿ったスライドを用い、講義形式で内容を丁寧に説明し、理解度を高める。

【授業準備】

予めシラバス内容を確認し、当日の講義内容について教科書部分を一読し。予備知識を得ておくことが重要である。なお、理解できなかった点は、適宜教員に質問し、早めの理解を心がけること。

【主な関連する科目】

生理学および生化学

【教科書等】

クイックマスター 「薬理学」 鈴木 正彦 著 サイオ出版

【参考文献】

特になし

【成績評価方法】

全講義終了後、定期試験（80％）を行い、講義中に行う小試験（20％）との総合点が60点以上を合格とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

担当者は、青森県警科捜研の勤務を筆頭に、八戸赤十字病院薬剤部、弘前大学医学部法医学講座・生化学講座、そして同薬剤学講座に教授・薬剤部長としての勤務経験を有している。これらの勤務経験から、各種疾患に使用される多くの薬物の作用機序並びに中毒も含めた副作用の発現について多くの研鑽を積んできた。これらの経験を活かした講義を通じて患者への安全で良質な薬物療法が遂行できる医療従事者の育成を目指す。

【学生へのメッセージ】

講義内容は、専門用語が多く理解しにくい面があるが、常に医療の現場に身を置いている状況を想定して授業に臨むことによって、理解度が向上する。得た知識を貴重な情報源として将来の業務に役立ててほしい。